



村上陽介先生を送る

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 滝野, 哲郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/3418

村上陽介先生を送る

村上先生がこの3月で定年退職を迎えられることになった。先生は、前任校の京都府立大学から大阪女子大学に着任されて以来、20年間にわたって大学、英文学科、そして改組後の英語英米文学専攻のために多くの貢献をされてきた。学科主任、大学評議員、運営委員会委員などの要職を歴任され、教育面においては、アメリカ文学関係の中心的存在として、大学院の「米文学演習」、学部の「アメリカ文学史」や「英米の文化と社会」などの授業を担当された。この数年間は、大学の教務全般のお仕事で多忙であったが、授業にはつねに周到な準備をされ、小テストも頻繁に課せられて、学生がしっかりと知識と教養を身につけることを願っておられた。先生のこの熱意ある授業や卒業論文の指導を受けて、多くの優秀な学生が巣立っていったことは言うまでもない。

先生の研究分野は小説を中心とするアメリカ文学であり、とりわけウィリアム・フォークナーが専門であった。先生は、この南部人作家をアメリカ的近代主義に対して批判的であるととらえられた。数多くのフォークナー論と、さらにはハーマン・メルヴィル、ロバート・ペン・ウォレン、F・スコット・フィッツジェラルド、ジェイムズ・ウェルチなどについての論文を執筆された。どの論にも、テキストに基づいた鋭く精緻な分析が見られ、そのいくつかは、『アメリカ文学を学ぶ人のために』、『文学とアメリカの夢』などの研究書の中に収められている。論文の半数近くは見事な英文で執筆されているが、これは学生時代よりたえず英語の力を磨いてこられたからであろう。大阪外国語大学の英語学科に在学中に、サンケイ・スカラシップを得てオハイオ州立大学に留学されたり、京都大学大学院の文学研究科修士課程を修了後、大阪市立大学に赴任、まもなくフルブライト奨学金によってシカゴ大学で研究に従事されM.A.を取得された。ちなみに、シカゴに行かれる前に、TOEFLで664点とい

う高得点を取得されていたそうである。先生は、英語の読みの正確さと緻密さをつねに大切にされていた。そしてそれは文学研究や授業だけでなく、さまざまな場面で活かされた。翻訳書に見られる問題点を分析し、その成果の一部を『英語正読マニュアル』として上梓されたり、また、高等学校用教科書の編集や、『小学館ランダムハウス英和大辞典』の執筆にもかかわってこられた。

いつも忙しくされていた先生は、最近よくご夫妻で海外旅行に出かけられるようになった。出発前にお二人で現地の事情を十分に下調べし、その言葉も学ばれるなど、詳細に計画を立てて旅を楽しまれていた。そして世界のいろいろな地域の興味深いお話をよく聞かせていただいた。来年度集中講義でキャンパスに来られたときには、お話の続きをきかせていただけるかもしれない。

いま先生は、これまでの長年にわたる研究成果をまとめておられるそうである。それが出来あがる日を心待ちにしている。どうかこれからもますますお元気でご活躍されることをお祈りしたい。

滝野 哲郎